

令和4年1月25日
資料提供
担当課 企業振興課
担当者 阪木・中嶋
電話（内線） 2757

ENEOSホールディングス(株)による和歌山製油所の 製油所機能の停止に対する知事コメント

脱炭素社会の実現に向けて世界と産業界が大きく舵を切ったことで、将来の石油需要減少が想定され、ENEOSホールディングス(株)も事業見直しを迫られる中、全社的合理化及び事業転換の一環として今回の発表に至ったものと推察される。

しかしながら、一方でENEOSホールディングス(株)の今期の業績は原油価格高騰の影響を受け、増収増益の見込みと聞いている。

地元の有田市において、ENEOS和歌山製油所は、経済面のみならず雇用面においても地域の重要な基盤であり、地元としても操業開始以来80年の長きにわたり、地域一体となって支えてきた歴史がある。そのような中で、地元にも相談なく、事前通告もなしで、一方的に製油所機能の停止を決定するというやり方は大変遺憾であり、大企業の姿勢として極めて疑問を感じざるを得ない。

今回の発表は、民間企業の経営判断によるものであるが、地元自治体としては、雇用や協力企業を中心とした地域経済への影響に重大な懸念を抱いている。

今回の「製油所機能の停止」については、速やかに撤回し、製油所の存続を図るとともに、今後、製油所機能を縮小しないといけない状況に陥った場合は、事前に相談し、脱炭素の時代にふさわしい新たな事業を和歌山製油所で実施するよう、ENEOSホールディングス(株)に強く求めたい。